９月号

No.11

Civis Magazine
PERIPLUS

“おとな研究所” 始めました。

清水堯仁さん(17 歳)

2003 年生まれ。ネットメディア「おとな研究所」編集長。参議院議員・音喜多駿を代表とする地域政党「あたらしい党」学生部副部長。政治活動の際は「Aki」という名義を使用。現在は「若者と地域政治」をテーマに活動中

歴史と小学生新聞、この 2 つが僕が政治に興味を持つようになったきっかけですね。」

そう語ってくれたのは、おとな研究所編集長の清水堯仁さん(17)だ。清水さんは、小学生の頃から歴史が好きで特に近現代史を学ぶ中で政治に触れ、また家で取っていた小学生新聞を読んで、社会の出来事などに触れたことから政治に興味を持つようになったという。

そんな中、2016 年の東京都知事選の時に音喜多駿(当時東京都議)氏がクラウドファンディングで、「あたらしい党」を設立したことを知りますます関心を抱くようになったとのことだ。

「もともとおとな研究所は僕個人のサブブログとして今年 2 月に開設したんですね。開設した理由は、”世の中で起きていることを高校生はこういう視点で見ています”ってことを知って欲しいと思ったからですね。最初は本当に軽いノリで始めたんですけど、おとな研究所の運営形態を完全に変えようと思ったのが、3 月くらいですね。どうしてそういう動きになったかってことなんですけど、僕が自分で”変えよう”と思っていた訳ではなくて、ある時”変えてみない”っていう声をかけていただいたんです。」

清水さんによると、知り合いの方から”一人で続けるのはいずれ続かなくなるし、それはもったいないことだから、清水さん一人のものじゃない形にしていく方が良いのでは”というアドバイスをもらったことが、おとな研究所が現在の形になるきっかけだったという。

おとな研究所の編集長として活動していく中で感じたことについて清水さんは、

「おとな研究所のメンバーにはあまり僕と年齢が変わらない方もいらっしゃるんですが、僕より何倍も政治の知識とか文章力があるんですね。若者の政治離れが言われていますが、同年代の人がこういう発信しているということが、もうちょっと広まると若者と政治の距離が身近になることにのかなと感じます。だからといって、同年代の人が発信しているから”私もやらないといけない”ということでは全然無くて、そういう活動をしている人がいることを知ることで、身近に感じてもらえればと思いますね。」と語る。

「なので、おとな研究所は Twitter での発信も積極的に行うことで、政治に詳しくなくても政治の話題にコミットし易い、敷居を下げることを意識しています。」とおとな研究所のスタンスについて清水さんは話してくれた。

また、清水さんは政治的な話題を提供するメディアの苦労も語ってくれた。

「政治に関する話題を提供するので、”政治的中立”をいう観点ももともとは出していたんですね。でもやっていく中で”政治的中立”を維持していくのは結構難しいというかほとんど無理だなとすごい感じたんですね。本当に中立を求めてやっていくと淡々と事実だけを伝えることになってしまうんですね。でもそれって存在する必要があるのかなと思うんですね。それよりは書いてる人の政治的な心情を全面に出していいという方針にしました。でもそれに対しては結構批判もあって、”特定の政党を応援している記事が多いんじゃないか”という声をもらうこともあります。　ただ、それはある程度仕方ないことだと割り切っています。」

政治家娘YouTuberみこちゃんねる

みこ の徒然日記

～安倍総理辞任に際して～

総理在任期間歴代 1 位を記録した安倍晋三氏。

2020 年 8 月に辞任を表明した。

一時代の終わりと新時代の幕開けを肌で感じた。思えば私の青春時代は常に安倍総理とともにあった。部活に汗を流し、勉学に励み、恋に悩んできた同世代の共通点ではないだろうか。

安倍政権の評価は置いておくが、ともかく「総理＝安倍晋三」となるほど彼は次世代を担う若者に影響を与えることとなる。現在はポスト安倍争いで世間は持ち切りだが、まずは自分が現在の安倍総理の年齢になった時代のことに思いを馳せたい。

現代の若者は不況の時代しか知らないのだが、ピンチはチャンスという言葉があるとおり不況にしか生きたことのない私たちだからこそ、これまでにないほど好景気な時代をつくりあげることができるのではないだろうか。

私自身、今の自分にはこれといった特技もなければ特別勉強もできるわけでもなく容姿が優れているわけでもない。しかし、何かしら将来の日本を動かす一員になると信じて疑わない。コロナ不況の現在においても希望を捨てず前向きに頑張っている同世代に多く出会えたからだ。

将来のために今自分ができることは何か、考えたい。

安倍総裁の辞任に伴い、次期総裁を決める総裁選が行われる。この選挙は事実上次期総理を決める選挙でもある。総裁候補と目される方の中には以前、私の YouTube チャンネルにも出演してくださった方もおり、注目したい。

次期総理大臣が誰になろうとも、私たち若者は将来を担う者として冷静に、かつ熱く行動していかねばならない。

政治的中立の話題が出たので、高校での政治に関する授業の様子についてもうかがってみた。

「そうですね～、僕の通っている高校では社会の仕組みや政治制度に関する授業は勿論あるんですが、先生もその中で色々注意を払いながら仕組みや制度に関する問題提起とかはやっていますね。というのもやっぱり、生徒の間でも政治や社会に興味のある人とそうでない人のギャップがすごいあるんです。なので、先生の側も先生の発言が一方的な意見にならないようにすごい注意をしながらやっているのは感じますね。ただ、特定のテーマに沿った議論をする授業とかは僕自身は面白いと思うんですけど、出来ていないですね。ですが、このコロナ禍で政治に対して色んな疑問とかを抱いている同世代は確実に増えていると思います。特に教育分野は僕たち学生に直接影響のあるものなので、そういうことへの疑問や不満を学外でも構わないので、発信、共有できる場はこれからもっと必要になると思います。」

これからの活動について清水さんは、

「おとな研究所の活動が中心になっていくとは思うんですけど、今高校 2 年生で来年には選挙権を得ることになります。その時に新しく選挙権を得た僕ら世代が政治に対してどういう風に感じているのか、ということをインパクトとして大人たちに伝えることが重要になってくると

思うんですね。なので、記事を書くだけじゃなくて、動画であったりもっとわかり易いコンテンツでも発信する事も必要になっていくと考えていますね。あと、僕自身の政治に対する立ち位置として ”地域が政治を変えていく” というものなんですね。なので、自分の住んでいる地域や学校がある地域に転がっている問題に目を向けていくことが必要だと思いますし、今後の活動にしていきたいと思います。」と語ってくれた。

最後に清水さんにとって ”政治とは” を伺った。

「そうですね、例えば日本人全体とか地域に住んでいる人たち以上に一番個人がどういう問題を抱えていて、個人がどういう人生を送ることができるかに関わってくるものだと思います。だから世界経済とか国防とか一見自分には関係ないと思っていることも以外なところで自分に直接関わってくるところもあるんですよね。なのでどんな話題でも個人と繋がっているのが政治だと思うので、どんなに大きなテーマでも自分の生活や人生にどう影響があるのかを見つめることが大事になるのだとおもいます。」

中立性、これは政治に関する話題を提供する側にとって非常に気を遣うものである。しかし、清水さんが指摘したように、本当に中立性を厳密に守った場合は淡々と事実を伝えることしかできなくなるとうのもうなずける。どういった形で提供するべきなのか、YouTube や Twitter といたネット・SNS ツールが発展し誰でも発信することができる現代において、発信する側が考え続けなければいけない問題だと考える。

一方で読み手側も中立性に必要以上に敏感になるのではなく、記事に書かれている意見を受けとめ、自分の考えと何が違うのか、自分の考えで改めるべきところはないか、を見つめなおす機会といて捉えることが必要になってくるのではないだろうか？